

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 78号

2014/1/6 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：先週の高値に対する利益確定売りと供給不足懸念が和らぎ、相場下落した。

①週最高：5月 LDN 市場 £ 1,727 /3月 NY 市場 \$2,712 (12/30,12/31) 先週比 **LDN - £ 71 / NY - \$108**
②週最低：5月 LDN 市場 £ 1,678 /3月 NY 市場 \$2,636 (1/2) 先週比 **LDN - £ 77 / NY - \$147**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場 £ 49 (傾向→) / NY 市場 \$76 (傾向→)
週内建玉推移：LDN 市場 235,160 枚 (12/27 終了時) ⇒ 234,038 枚 (1/2 終了時) **-1,122 枚**
NY 市場 211,526 枚 (12/27 終了時) ⇒ 204,836 枚 (1/2 終了時) **-6,690 枚**

【12月30日(月)】両市場とも大幅安＝利食い売り

両市場とも大幅下落した。これまでの上昇に対する利益確定の売りが出たほか、コートジボワールの着荷量が高水準となり、世界的な供給不足をめぐる懸念が和らいだことが背景。ニューヨーク市場の3月きりは73ドル(2.6%)安の**2712ドル**で終了。ロンドン市場の5月きりは42ポンド(2.4%)安の1713ポンドで引けた。

【12月31日(火)】まちまち＝年初来上昇率は20%超

ロンドンとニューヨーク市場はまちまち。両市場とも2013年の年初来上昇率は20%を上回り、09年以来最大の上昇率となった。

米国のココア先物の年初来上昇率は21%。

ニューヨーク市場の3月きりは利食い売りが出て、0.1%安の2709ドルで終了。ロンドン市場の5月きりは14ポンド高ので引けた。**1727ポンド**

【1月1日(水)】休場

【1月2日(木)】両市場とも大幅安

休場明け2日のココア先物相場は活発な商いの中、大幅下落した。

主要産地コートジボワールの着荷量が予想を上回っており、2013～14年の供給不足見通しの修正

が促されるとみられたため。ニューヨーク市場の3月きりは、73ドル安の2636ドルで終了。ロンドン市場の5月きりは49ポンド安の1678ポンドで引けた。

【1月3日（金）】両市場とも反発

ロンドン市場は反発。主要産地コートジボワールの着荷量の多さから、取引開始時は7週間ぶりの安値を付けたが、その後は一転上昇した。

5月きりは39ポンド（2.3%）高の1717ポンドで終了。序盤は7週間ぶりの安値となる1674ポンドまで下げた。ニューヨーク市場も反発。3月きりは63ドル（2.4%）高の2699ドルで引けた。一時は3.3%高の2723ドルまで上昇した。

2、コートジのカカオ収穫数量 12月31日時点で昨年を大きく上回る 904,000 トンに(1/3)

世界最大のカカオ生産国であるコートジボワールの今シーズンの港への着荷数量が10月2日から12月31日までの合計で904,000トンになったことが輸出業者の算出で判明した。昨年の同時期までの着荷数量が649,000トンであったことを考慮すると大幅な増加となっている。

輸出業者は、12月30日、31日の両日でアビジャン港とサンペドロ港に合計36,000トンのカカオが着荷したと見積もっており、昨年の同期間の着荷数量は27,000トンであった。

3、ガーナ産カカオ、メインクropp生産数量 486,094 トンに。前年対比 39.9%増加。(12/25)

ガーナのカカオの生産数量はメインクroppがスタートした10月18日から12月12日までの合計で486,094トンに達し、前年同期間対比で39.9%の増加となっていることがカカオ産業監督庁のココボットの統計発表で判明した。

この数字はシーズンが開始してから8週間目までの合計数字で、昨年の同期間の347,401トンと比較すると急激な増加となっている。

ガーナは世界第2位のカカオ生産国で、今シーズンは約830,000トンのカカオの収穫を見込んでいる。

4、インドネシア政府、2014年のカカオ等主要農作物はおおむね増産と発表(1/3)

インドネシア農務省は今年度の主用農作物の生産数量は前年対比15%~19%の増産となる見込みであるが、ゴムについては、12%程度の減産となると発表した。

『パームオイルに関しては、多くのオイルパーム農園が成熟時期に達してきており生産数量が伸びる』
『一方で、原生林や沼炭地の整備により一時農地として使用できない場所もあるが、他の地域ではオイルパームの農園は拡大し続けている』と農務長官 Gamal 氏は説明した。

『ゴムに関しては、国際価格の低迷により、生産者がゴムの採取を減らしている為、2014年の生産数量は減少する見込みだ』

下記は、主用農作物の2013年の生産数量見込みと、2014年の生産予測数量である。

<u>農作物</u>	<u>2014</u>	<u>2013</u>	<u>前年対比</u>	<u>*単位はトン</u>
ゴム	2,800,000	3,180,000	-12%	
パームオイル	28,000,000	24,430,000	15%	
カカオ豆	1,100,000	938,843	17%	
コーヒー豆	791,000	666,146	19%	

5、ブラジル産カカオ豆生産数量、5月～12月までの実績で前年対比 27%減少(1/1)

5月1日から12月29日までのブラジル産カカオの港への国内の生産地域と輸入品の合計着荷数量は前年同時期対比 27%減少の 154,173 トンとなったとバヒア商業組合が発表した。

下記は、2013/2014 シーズン、2012/2013 シーズンの統計である。

2013/14 シーズン着荷数量 単位 ; 60 kg入り袋 期間 : 2013 年 5 月 1 日～2013 年 12 月 29 日

<u>地域</u>	<u>前週</u>	<u>シーズン合計</u>
Bahia	50,074	1,794,915
その他の地域	19,276	674,593
輸入品	0	100,046
合計 (袋数)	69,350	2,569,554
合計 (トン)	4,161	154,173

2012 /13 シーズン着荷数量 単位 ; 60 kg入り袋 期間 : 2012 年 5 月 1 日～2012 年 12 月 29 日

<u>地域</u>	<u>前週</u>	<u>シーズン合計</u>
Bahia	53,710	2,367,836
その他の地域	7,997	859,323
輸入品	0	284,315
合計 (袋数)	61,707	3,511,474
合計 (トン数)	3,702	210,688

6、インドネシア、カカオの輸出関税は 5%引き上げ 10%へ変更(12/23)

インドネシア政府の発表によると、同国からのカカオ豆の輸出関税は先月より、これまでの 5%から 10%へ引き上げられた。これまでの 5%から更に 5%引き上げられた。

インドネシアでは、同国内のカカオ豆磨砕工場への投資が相次いでおり、これまでのカカオ豆輸出型の産業構造から、国内でのカカオ豆加工型の産業構造への変化が生じている状況である。

関連ニュース 中国、2014年から粉ミルク規制を強化へ(12/26)

中国が2014年から粉ミルクの規制を強化する予定だ。国内生産者の信頼を高め、124億ドルの調製粉ミルク市場の安全性に対してくすぶり続けている懸念の払しょくを目指す。

中国国家食品薬品监督管理局(CFDA)のウェブサイト上の声明によると、粉ミルク製造会社には来年5月末までに、強化された規定による認可を受けることが義務付けられる。その後CFDAは、承認した業者を公表する。

声明には「新規則により、粉ミルク業者は認可を受けることがより難しくなる。重要なのは、これによってセクター全体の安全性と質の制御、原材料の質、生産過程やトレーサビリティ(追跡可能性)を引き上げることができるということだ」と記されている。

特集記事：『マラリア』について

恥ずかしながら、11月中旬から12月頭にかけて渡航したアフリカでマラリアに感染し、日本に帰国後発症し、1週間の入院を余儀なくされました。アフリカ特有の熱帯性マラリアへの感染でした。これを機に一度マラリアについて纏め、読者の皆さまの中でアフリカや一部のアジア地域に渡航される方がいらっしゃいましたら予備知識としてご参照いただければと思います。

カカオの主生産国の多くは、マラリアへの感染の危険性が高い国でもありますので、一度知っておくのも安心かと存じます。

●マラリアについて

『マラリアはエイズ、結核と並ぶ世界三大感染症の一つ』

マラリアは、マラリア原虫属(*Plasmodium*)が原因の寄生虫感染症で、ヒトに感染するマラリア原虫として熱帯熱マラリア原虫(*P. falciparum*)、三日熱マラリア原虫(*P. vivax*)、四日熱マラリア原虫(*P. malariae*)、卵形マラリア原虫(*P. ovale*)が存在します^{*}。なかでも、熱帯熱マラリア原虫は最も病原性が高く、重症の貧血および脳性マラリアを引き起し、患者を死に至らせることもあります。また、ヒトにマラリア原虫を媒介するハマダラカ(*Anopheles* 属)は約60種類が知られています。

体内に侵入したマラリア原虫は赤血球内で分裂を繰り返し、感染赤血球の破壊による貧血、低酸素血症、放出された毒性物質の体温中枢刺激による特有の熱発作、マクロファージの増殖と貪食能の亢進による肝脾腫、マラリア色素の沈着による臓器障害を起こします。また、熱帯熱マラリアの場合、感染赤血球が血管内皮細胞や非感染赤血球と接着して毛細血管を塞栓し、脳性マラリアや肺水腫を惹起することもあります^{*}。

マラリアはエイズ、結核と並ぶ世界三大感染症のひとつです。近年、マラリアの流行状況には若干の改善傾向が認められますが、世界保健機関(WHO)によれば、マラリアの年間感染者数は1.5~2.7億人、死亡者は54~91万人と推定されています^{*}。

日本国内でもかつてはマラリアの流行がみられましたが、1962年以降は自然感染の報告はありません。しかし、1970年頃から海外渡航者や来日外国人の増加により輸入マラリア患者が散発的に発生するようになりました。1999年にいわゆる感染症法が施行され、マラリアは届け出が義務付けられた4類感染症に指定されました。それ以降、報告数は増加し、2000年には154例に達しました。その後、2001年からは患者数は減少に転じ、2010年は76例でした(図1)^{*}。ただし、重症化しやすい熱帯熱マラリアが半数以上を占めており、特にアフリカで感染したと推定される患者では熱帯熱マラリアが79%を占めており(図2)^{*}。注意が必要です。また、日本人が海外で発症するケースもあり、国内発症例と同等かそれ以上と推定されています。

図1 日本国内におけるマラリア報告数の推移

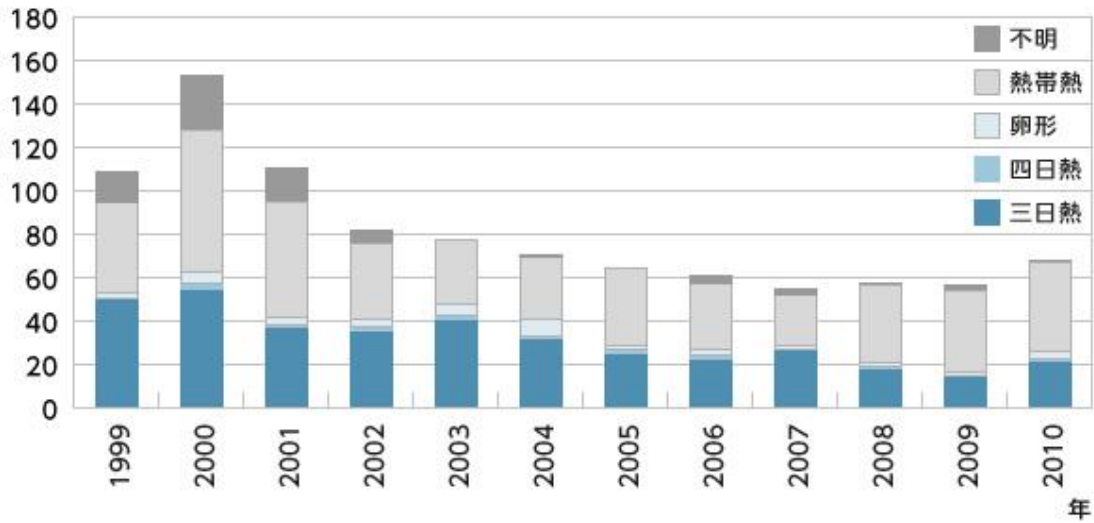
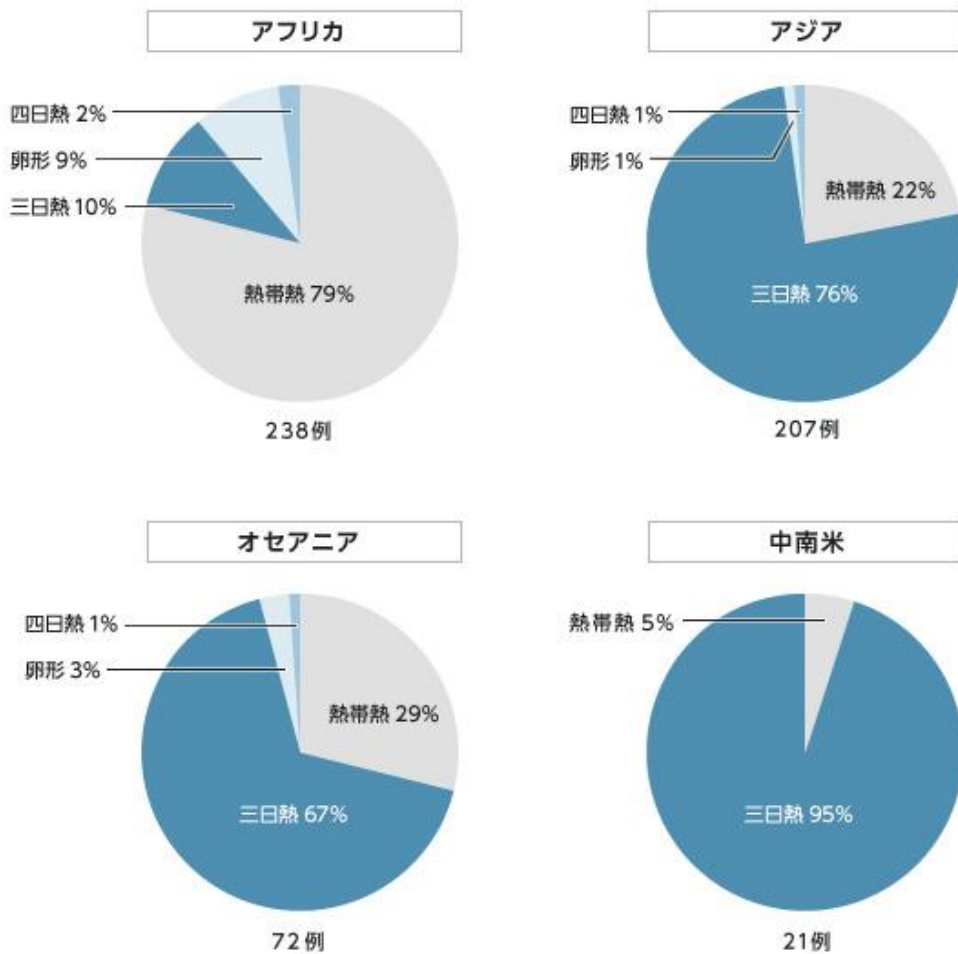


図2 マラリア報告症例の推定感染地域別原虫別割合 (1999年4月～2005年12月)



(感染症発生動向調査：2007年1月9日現在報告数)

●マラリア原虫の種類と特徴

『熱帯熱マラリアは短時間で重症化しやすい』

ヒトが罹患するマラリアには、熱帯熱マラリア、三日熱マラリア、卵形マラリア、四日熱マラリアの4種類があります(表)。

非熱帯熱マラリアでは重症化することは稀ですが、熱帯熱マラリアは重症化しやすく、発症してから5～6日間無治療あるいは不適切な治療で経過すると、痙攣や昏睡などの脳症、肺水腫/急性呼吸窮迫症候群(ARDS)、急性腎不全、重症貧血、循環不全によるショック、電解質異常、代謝性アシドーシスなどの重篤な症状や合併症を呈する重症マラリアとなり、最終的に死に至ることがあります。

表 マラリアの種類と特徴

種類	潜伏期*	発熱パターン	合併症	地理的分布	薬剤耐性
熱帯熱マラリア	7～21日、 あるいはそれ以上	毎日、 ときに1日複数回	脳症、肺水腫/ARDS、 急性腎不全、DIC様 出血傾向、重症貧血、 代謝性アシドーシス、 低血糖、肝障害	サハラ以南アフリカ、 南アジア、インドシナ 半島、インドネシア、 フィリピン、中国南部、 メラネシア、南米アマ ゾン川流域	深刻
三日熱マラリア	12～17日、 あるいはそれ以上	初め毎日、 その後1日おき	特になし	北アフリカ、中東、アジ ア全域、メラネシア、中 南米	多少問題
卵形マラリア	16～18日、 あるいはそれ以上	初め毎日、 その後1日おき	特になし	サハラ以南アフリカ	殆ど問題なし
四日熱マラリア	18～40日、 あるいはそれ以上	初め毎日、 その後2日おき	慢性化すると ネフローゼ症候群	世界各地に巣状に分布	不明

*予防内服をしていて発症する場合には、2～3ヶ月と長いことがある。

●マラリアの感染経路と原虫の生活環

『マラリア原虫はヒト体内で無性生殖を繰り返し、赤血球を破壊する。』

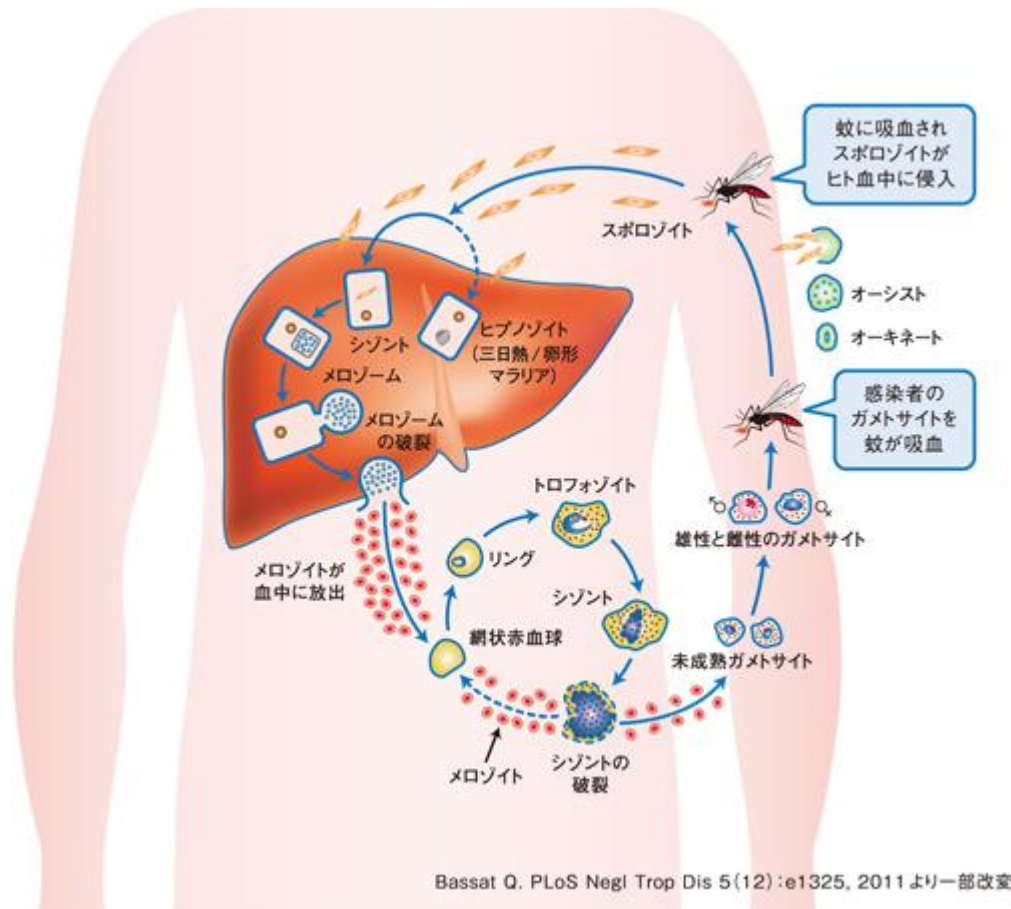
マラリアは、メスのハマダラカの刺咬により、マラリア原虫が体内に侵入して罹患します。

マラリア原虫の生活環は蚊体内およびヒト体内の2段階に分けられます(図)。

マラリア原虫を保有する蚊にヒトが吸血されると、蚊の唾液腺に存在する感染性のスポロゾイト(肝内型)がヒト血中に侵入し、速やかに肝臓に移行します。スポロゾイトは肝細胞内で急速に分裂し、多核のシズントが生じます。成熟したシズントから多数のメロゾイド(赤内型)が血中に放出され、赤血球に侵入します。メロゾイトは赤血球内でリング(輪状体)、トロフォゾイト(成熟栄養体)、シズント(分裂体)へと形態を変えながら分裂し、原虫の種類により48～72時間で1個のメロゾイトから8～32個の新たなメロゾイトが生じます。この段階で、成熟すると、赤血球を破壊して、血中に放出され、新たな赤血球に侵入します。以後このサイクルを繰り返します。感染者は、赤血球破壊およびメロゾイト放出が刺激となり発熱、悪寒などのマラリアの症状を呈します。また、放出されたメロゾイトの一部は雌雄異株のガメトサイト(生殖母体)に分化し、血中で長期にわたり生存します。この感染者が蚊に吸血されると、ガメトサイトが蚊の体内に侵入し、その中腸内で雌雄の生殖体(ガメト)に変態し、雌雄で接合した後、オーキネートからオーシストに分化します。そして、オーシスト内で急速に増殖した数千個のスポロゾイトは、オーシストの破壊により蚊の中腸壁から放出されて

唾液腺に移動し、蚊が吸血することで新たにヒトに感染することになります。

なお、三日熱マラリアと卵形マラリアではヒトの肝臓内でヒプノゾイト(休眠体)が形成され、1～数ヵ月、ときには1年以上経過してから再発することがあります。

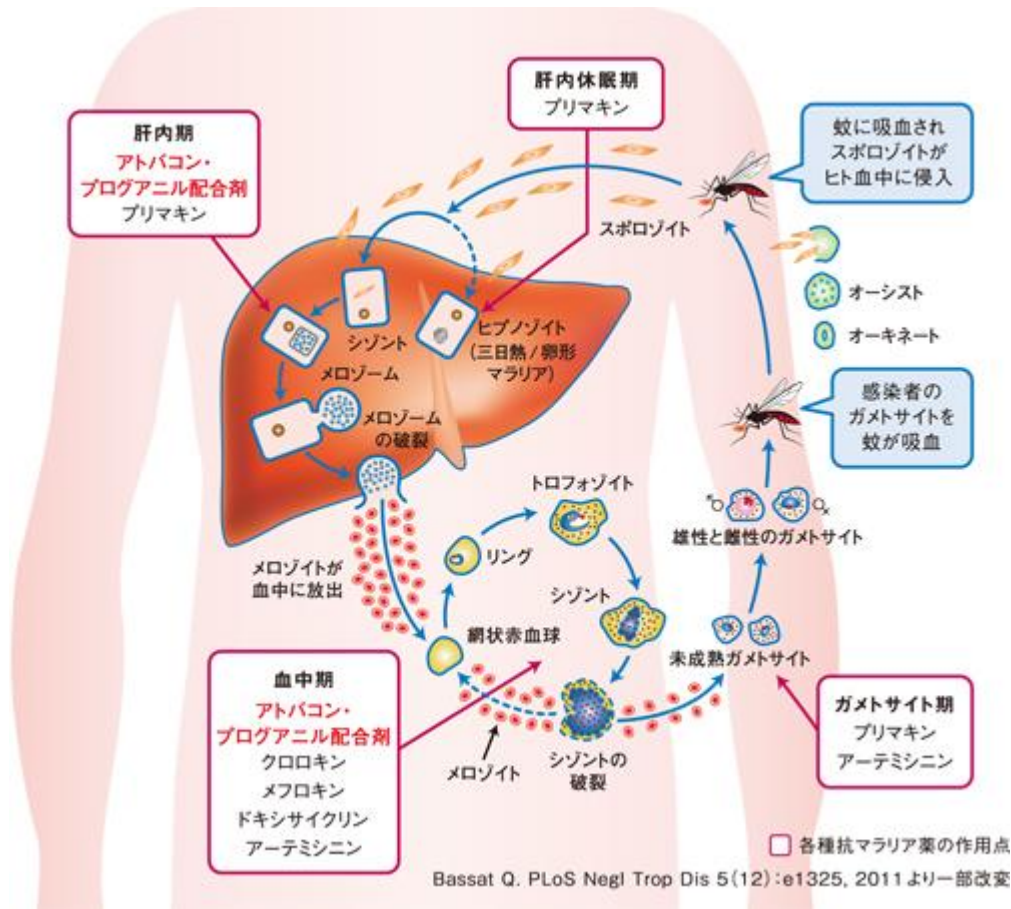


●抗マラリア薬について

感染したハマダラカに吸血されるとスポロゾイトがヒト血中に侵入し、速やかに肝臓内に移行します。マラリア原虫のヒトの体内での生活環は、肝臓内に存在する「肝内期」と、メロゾイトとして血中に放出されて赤血球内に存在する「血中期」に大別されます(図)。メロゾイトは赤血球内でシゾントへと形態を変えながら分裂し、成熟すると赤血球を壊して血中に放出され、新たな赤血球に侵入するというサイクルを繰り返します。一部のメロゾイトは配偶子形成を行い、雌雄のガメトサイトに分化し、血中で長期にわたり生存します(「ガメトサイト期」)。

抗マラリア薬のほとんどは血中期に作用し、肝臓内での原虫には作用しません。しかし、アトバコンは血中期のみならず、肝内期にも作用することから(スポロゾイトからシゾントまでの段階)、アトバコン・プログアニル塩酸塩錠は肝内期および血中期のマラリア原虫に対して効果を発揮すると考えられます。ただし、三日熱マラリア、卵形マラリアでは肝臓内で休眠体(ヒプノゾイト)として存在する「肝内静止期」があり、ヒプノゾイトを根絶するためにリン酸プリマキン(未承認薬)の投与が必要です。

図 マラリア原虫の生活環と抗マラリア薬の作用ステージ



予防に用いられる抗マラリア薬

一般名	成人投与量	小児投与量
アトバコン・プログアニル塩酸塩*	1錠(アトバコン/プログアニル塩酸塩として250mg/100mg)を1日1回 マラリア流行地域到着24~48時間前より開始し、流行地域滞在中及び流行地域を離れた後7日間、毎日食後に経口投与する	体重40kgを超える小児1錠(アトバコン/プログアニル塩酸塩として250mg/100mg)を1日1回 マラリア流行到着24~48時間前より開始し、流行地域滞在中及び流行地域を離れた後7日間、毎日食後に経口投与する
メフロキン塩酸塩*	30~45kg未満:3/4錠(206.25mg) 45kg以上:1錠(275mg) マラリア流行地域到着1週間前より開始し、1週間間隔(同じ曜日)で経口投与する。流行地域を離れた後4週間は経口投与する。なお、流行地域での滞在が短い場合であっても、同様に流行地域を離れた後4週間は経口投与する	国内では小児の適応はない

* 予防目的の場合、保険適用不可

治療に用いられる抗マラリア薬

一般名	成人投与量	小児投与量
アトバコン・プログ アニル塩酸塩	1日4錠(アトバコン/プログアニル塩酸塩として1000mg/400mg)を3日間、食後に経口投与する	11~20kg:250mg/100mg(1錠) 21~30kg:500mg/200mg(2錠) 31~40kg:750mg/300mg(3錠) >40kg:1000mg/400mg(4錠) 体重に応じて1日1回3日間、食後に経口投与する
メフロキン塩酸塩	30kg以上45kg未満:初回2錠(550mg)、6~8時間後に1錠(275mg) 45kg以上:初回2錠(550mg)、6~8時間後に2錠(550mg)経口投与する 感染地及び症状によって 30kg以上45kg未満:初回3錠(825mg)、6~8時間後に1錠(275mg) 45kg以上60kg未満:初回3錠(825mg)、6~8時間後に2錠(550mg) 60kg以上:初回3錠(825mg)、6~8時間後に2錠(550mg)、さらに6~8時間後に1錠(275mg)経口投与する	国内では小児の適応はない
キニーネ塩酸塩	1回0.5gを1日3回経口投与する	

岩田健太郎, 土井朝子 監訳:トラベル・アンド・トロピカル・メディスン・マニュアル, 2012(The Travel and Tropical Medicine Manual, fourth edition: edited by Jong EC, Stanford C, 2008)、各薬剤の添付文書をもとに作成

商品名で探す時の注意事項:

一般名:アトバコン・プログアニル塩酸塩

商品名:マラロン(グラクソスミスクライン)

一般名:メフロキン塩酸塩

商品名:「ラリアム」(ロシュ)「メファキン」(久光製薬)「メフリアム」(Cipla:インドの製薬会社)

予防薬・治療薬については、マラロンが圧倒的にお勧めです。メフロキンは投薬頻度が少なく、薬の値段も安いですが、副作用が非常に強く、幻覚や悪夢を見ること、鬱状態になることがあります。一方マラロンは毎日投薬しなければならず、また価格も高いですが、副作用がほとんどなく、またあったとしても軽い頭痛程度で比較的影響が少なく過ごせます。

*マラリアに関する情報はグラクソスミスクライン社のHP情報を参照致しました。

*特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております!!こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp